

## 5) 法動態部門

中川 晶比兒（教授・経済法）

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

競争企業間の水平的提携のガバナンス構造と競争効果の解明を進めた。数量競争が行われる市場において、相当数の企業提携が profit sharing として分析でき、その競争効果分析には水平合併規制の基準を利用できることを、経済分析によって明らかにした。長期的なシナジー効果も競争効果分析に視野に入れられることを具体的な事例を用いて論じ、ガバナンス構造との関係で競争効果を分析するアプローチの有効性を明らかにした。価格競争が行われる市場については、対称的な差別化のモデルに限定して分析を行った。モデルの妥当性を検証し、垂直的な流通系列に拡大しても頑健なモデルを特定した。少数株式取得規制に関する序論的検討も進め、コーポレートガバナンスとの関係で規制強化の声もある投資ファンドや、総合商社の独禁法上の扱いについて今後の検討課題になることを特定した。上記研究成果については、2016年9月及び2017年1月に論文として公表した。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

サプライチェーンのグローバル化が企業間提携に対する独禁法規制にどのような問題をもたらすかを分析した。サプライチェーンのグローバル化が最も鮮明に現われる局面として、独禁法の域外適用に関する比較法研究を行い、国際公法・国際租税法の研究も進めた。競争当局間の執行協力が進んでいる国際合併と対照的に、カルテル規制では制裁の段階において国家管轄権の単独行使の側面がなお強いことから、実体法ルールの国際的収斂が進んでいない水平的提携の分析については、国際協力がいっそう重要になるという示唆を得た。2017年3月に外部の研究会で報告(招待報告)をし、論文として2017年度末に投稿予定である。

その他(教育活動ほか)

2016年度は研究専念期間であったため、教育は担当していない。しかし、2017年度開講科目の準備として、成人向け道徳教育、不健康・肥満と競争、過労死といったテーマについて、文献調査を進めた。このうち、2017年度全学教育過程向け科目として、「道徳的判断」の開講が実現した。

## 論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
「質疑応答 インフルエンザワクチンの価格」	日本医事新報 4806 号	2016	70-71
CPRC 共同研究報告書「企業結合審査における輸入圧力等の評価に係る事後検証」(大橋弘ほかとの共著)		2016	59-77
「再販売価格維持と小売マージン」	北大法学論集 67 卷 3 号	2016	83-134
「企業結合審査における輸入圧力等の評価に係る事後検証—平成 27 年競争政策研究センター共同研究報告書の概要—」(中村豪との共著)	公正取引 795 号	2017	51-55
「販売アライアンス・少数株式取得と独占禁止法」	NBL1090 号	2017	82-87

## 学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
「平成 27 年度 CPRC 共同研究 企業結合審査における輸入圧力等の評価に係る事後検証 最終報告」		2016 年 4 月	公正取引委員会
「日本製紙・特種東海」	独占禁止法判例研究会	2016 年 9 月	北海学園大学

## 図書

書名	出版社	発行年	単／共
川濱昇・武田邦宣・和久井理子編著『論点解析経済法第2版』	商事法務	2016	共著